

の CURT HOFFMANN 博士が 60 歳でなくなつた。次で 7 月にはアメリカ合衆国スタンフォード大学教授 GILBERT M. SMITH 博士の死が報ぜられた。氏の隠花植物、又北米産淡水藻の教科書等の著書は我国に於いても頗る著名である。此処に謹んで哀悼の意を捧げその御冥福を祈る。 (山田幸男)

新 著 紹 介

A. Д. Зинова: О Двух Бурых Водорослях из Антарктики—*Phyllogigas* и *Himantothallus*

— Академия Наук СССР Всесоюзное Ботаническое Общество Ботанический Журнал, Том XLIV, 3 (1959),
Издательство Академии Наук СССР, Ленинград,
В-164, Менделеевская Линия, 1.

エ・デ・ジノバ著: 南極産褐藻類の 2 属, ヒマントタルス属と ヒロギガス属に就いて (挿図 6 枚付)

— ソ連邦植物学雑誌, 14 巻, 3 号 (1959) 掲載,
発行所・レニングラード, В-164, Менделеев通 1
ソビエツト科学アカデミー (価格 15 ルーブル)

著者はソ連邦科学アカデミー・コマロフ名称植物学研究所に所属の女流海藻学者として最近活潑な仕事を遂行している。

扨て今回著者は、1956 年度のソビエツト南極学術探検隊が持ち帰つた、大型の褐藻標本 2 個体を詳細に観察し、これ等の材料とゲッブ (1905, 1907)・スコツツベルグ (1907) 等が南極の仕事で已に報告せるものとを比較して興味深い結論を述べている。即ちこの論文に於て 1 新種, 1 新結合, 1 新名称そして 1 新科の創設を提唱した。直接本邦の海藻フロラとは密接な関連はないかも知れないが我国の南極探検隊も活躍の折、茲に抄録しておくことも有意義かと思う。

そこでジノバの調べた 2 個体の標本は本論文の第 1 図 (p. 373) 及び第 2 図 (p. 374) に示されているが、それ等はヒマントタルス コロトケビッチ (*Himantothallus korotkevicii* A. ZINOVA sp. nov.) の学名が与えられ、新種としてラテン文の記載をつけて発表されている (p. 378)。その要旨は次の通りである。『体は基部扁平、附着器は多数・不規則に分岐して枝を蔽つている。柄及び枝は扁平にして長短あり、単条或いは偽叉状に分岐している、基部と分岐筒處の下部は扁平状に拡がっている、螺旋状に捩ちられている。葉片は披針状線形、楔形、全縁或いは細長い裂片を有する、膜質、皺あり、螺旋状に捩ちられている』。

ジノバは又詳細な観察ノートを書いているが、これに依ると今回の標本の特徴は (1) 体は仮根に依つて強く基物に固着していること、(2) 枝の形成法が特徴的であること即ち枝の扁平部の先端に於て三分岐して枝を出す、つまりこの部分が生長帯を成している訳である。此の分岐の2部分が生長し、その後途中で3つ目は死滅流失するのである。(3) ジノバの観察した2個体の中前者は略々完全であるが、後者は体の一部が流失していた。然しその断片はこの標本の採集地点附近から見出された、そのフラグメントの大きさは丈は 1.5 m、幅は 25 cm に達した。これ等は乾燥標本にて厚さは 2 mm に達する。

次にジノバの新種と従来南極から已に報告されているものを比較し、最も近縁種として *Himantothallus spiralis* SKOTTSB. (第3図) があげられている (これはヒマントタルス属のタイプ種である)。

又ジノバはこの新種と *Lessonia grandifolia* A. et E. GEPP (GEPP, 1907) (第4図) とを比較した。但しこのゲップの種はスコッツベルグによつて *Phyllogigas grandifolius* (GEPP) SKOTTSBERG (SCOTTSB. 1907) として新結合が行なわれたものである。この比較の結果外形・内部構造共に極めて近縁であることが確認された。そこでジノバは彼女の新種がヒマントタルス属及びヒロギガス属の夫々の種に極めて近いという矛盾に到達した訳である。ジノバはこの矛盾の原因はヒマントタルス属とヒロギガス属との間に混乱が存在するからであるとして次の如く指摘したのである。即ちスコッツベルグは 1907 年にヒマントタルス属及びヒロギガス属の2属を創設した。そしてヒロギガス属の分類に際して *Lessonia grandifolia* GEPP の他に彼自身の海藻標本 (第5図, 第6図) をも資料として *Phyllogigas grandifolius* (GEPP) SKOTTSB. としたのである。処でゲップの挿図 (先述の GEPP, 1907 即ち本論文の第4図に示されている) の中にはヒマントタルス属の成体 (第4図の1) とヒロギガスの若い体 (第4図の2) の両方が画がかれている。即ちゲップの *L. grandifolia* の本体は2つの属を混ぜている訳であり、これに基づいているスコッツベルグの *Phyllogigas grandifolius* は当然2つの属に所属する2種を含んでいることになる。依つてこれを正しく分類し直さなければならないとジノバは云うのである。

然らばヒマントタルス属とヒロギガス属の両者の相異点は何かという、その最も著しいことは、生長の方法に於てである。即ち前者に於いては若芽は体の扁平部から分裂独立して行くのに対して、後者に於いては、若芽は茎から両側に生長して行く点にあると云う。

ジノバは以上の分類学的経緯を考察し、併せて今回の南極材料の研究に基づいて次の結論を導いた。(1) 従来ゲップとスコッツベルグに依つて発表されたものと、ソビエツト南極探検隊の採つた標本とは2つの属に所属するものであること、(2) これ等の属の間の従来知られていたスコッツベルグの分類は材料不十分の為不正確であつたこと、(3) それ故に種と属の命名が混乱し不当であつた。

ジノバはどの種をどの属に帰属させるべきか又夫々の種のシノニームを次の表の如く列挙した (p. 378)。即ち

Genus *Himantothallus* SKOTTSB. (3種を含めた)

1. *Himantothallus spiralis* SKOTTSB. (属のタイプ)

SKOTTSBERG, 1907, p. 143, fig. 173-176, tab. 10. [本文第1図]

2. *Himantothallus grandifolius* (GEEP) A. ZIN. comb. nov. (新結合)

Syn. *Lessonia grandifolia* A. et E. GEPP, 1905, p. 105; 1907, fig. 74 (?), pro parte. — *Phyllogigas grandifolius* SKOTTSBERG, 1907, fig. 74 (?), pro parte. [本文第4図]

3. *Himantothallus korotokeviczii* A. ZIN. sp. nov. (新種) [本文第1図及び第2図]

Genus *Phyllogigas* SKOTTSB. (1種を含めた)

1. *Phyllogigas skottsbergii* A. ZIN. nom. nov. (新名称)

Syn. *Phyllogigas grandifolius* SKOTTSBERG, 1907, p. 63, fig. 73, 75-80, tab. 6, pro parte. — *Lessonia grandifolia* GEPP, 1907, pl. 1, fig. 2 (?), pro parte. [本文第5図及び第6図]

最後にこれ等の属の分類学的位置に触れているが、これ等の海藻の構造上の基本的特徴として (1) 篩管があること (2) 短い細胞の糸から成る中心層がある、特にヒマントタルス属に発達していること (3) コンブ型の粘液腔導は無いこと等を挙げ、更に解剖学的構造からそれ等に近い第3の属 *Phaeoglossum* SKOTTSB. (SKOTTSBERG, 1907, p. 59) を含めてジノバの提唱する新しい科 *Himantothallaceae* に含まれるものだという。この新科の系統上の位置は特別なグループ、仮称 *Himantothallales* (?) を将来設けて含めたい旨を匂はしているが、目下の処南極のこれ等の海藻の生殖方法は不明なので決断は下し得ないと新しい目の創設には疑問符を残している。(舟橋説往—北海道大学理学部植物学教室)

学 会 録 事

役 員 移 動

庶務幹事辻寧昭氏、都合により昭和35年3月31日付をもつて退任。

会 員 移 動